

2025 年 3 月 19 日 全 8 頁

Indicators Update

2025 年 1 月機械受注

製造業・非製造業（船電除く）ともに受注額が減少

経済調査部 エコノミスト ビリング 安奈

[要約]

- 2025 年 1 月の機械受注（船電除く民需）は前月比▲3.5%とコンセンサス（Bloomberg 調査：同▲0.1%）を下回り、2 カ月連続で減少した。製造業、非製造業（船電除く）からの受注額はいずれも減少した。内閣府は機械受注の基調判断を、「持ち直しの動きがみられる」に据え置いた。
- 製造業からの受注額は 2 カ月連続で減少した。石油製品・石炭製品やはん用・生産用機械などからの受注が減少した。非製造業からの受注額は 3 カ月ぶりに減少した。運輸業・郵便業、情報サービス業、金融業・保険業などが減少し、全体を押し下げた。
- 先行きの民需（船電除く）は、緩やかな増加基調を維持するとみている。国内では企業の設備投資意欲が旺盛であることから、今後も省力化投資などの増加が期待される。ただし、海外経済の先行き不透明感は依然として強く、企業は設備投資を手控えるリスクがある。

図表 1：機械受注の概況（季節調整済み前月比、%）

	2024年								2025年
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
民需（船電を除く）	▲2.2	1.7	▲0.0	▲1.4	▲0.3	1.6	2.6	▲0.8	▲3.5
コンセンサス									▲0.1
DIR予想									▲3.2
製造業	4.0	▲4.0	▲1.5	▲4.1	1.6	8.8	5.3	▲8.4	▲1.3
非製造業（船電を除く）	▲3.3	2.3	5.5	▲5.7	1.3	▲1.5	1.3	3.3	▲7.4
外需	6.5	2.4	8.2	▲13.3	▲6.3	4.6	▲3.8	6.5	1.9

（注）コンセンサスはBloomberg。

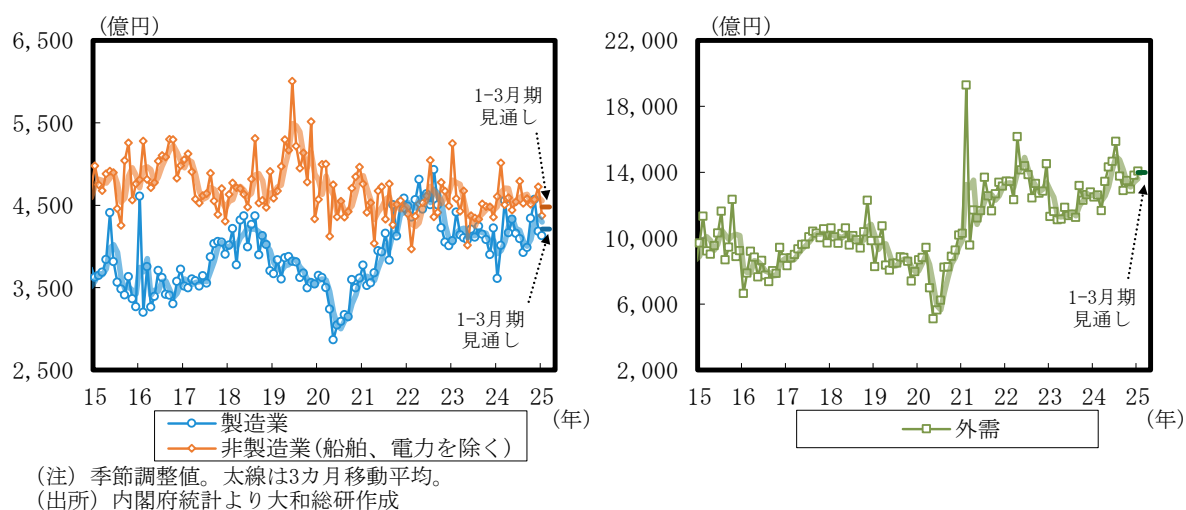
（出所）Bloomberg、内閣府統計より大和総研作成

【総括】製造業・非製造業（船電除く）ともに受注額が減少

2025年1月の機械受注（船電除く民需）は前月比▲3.5%とコンセンサス（Bloomberg 調査：同▲0.1%）を下回り、2カ月連続で減少した。製造業、非製造業（船電除く）のいずれも受注額が減少した。内閣府は機械受注の基調判断を「持ち直しの動きがみられる」に据え置いた。

製造業では、石油製品・石炭製品、はん用・生産用機械といった業種からの受注が減少し、2カ月連続で減少した。非製造業は3カ月ぶりに減少し、全体を押し下げた。運輸業・郵便業、情報サービス業、金融業・保険業といった業種からの受注が減少した。

図表2：需要者別に見た機械受注額



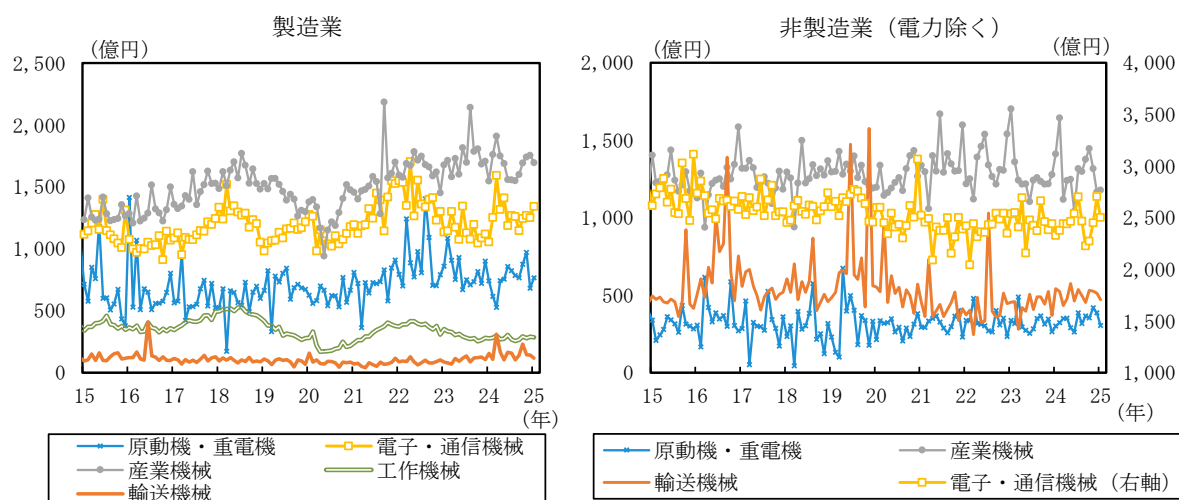
【製造業】石油製品・石炭製品やはん用・生産用機械などからの受注が減少

1月の製造業からの受注額は前月比▲1.3%と2カ月連続で減少した。機種別に見ると、産業機械や輸送機械、工作機械が減少した一方、電子・通信機械と原動機・重電機は増加した（図表3左、大和総研による季節調整値）。業種別では17業種中9業種が減少した。石油製品・石炭製品（同▲71.1%）やはん用・生産用機械（同▲11.6%）などからの受注額が減少した。他方、電気機械（同+18.2%）、その他製造業（同+15.7%）などは増加した。

【非製造業】運輸業・郵便業や情報サービス業、金融業・保険業などが減少

1月の非製造業（船電除く）からの受注額は前月比▲7.4%と3カ月ぶりに減少した。機種別に見ると、電子・通信機械や原動機・重電機、輸送機械が減少した一方、産業機械と工作機械は増加した（図表3右、大和総研による季節調整値）。業種別では、11業種中5業種が減少した。前月に大型案件が1件あった運輸業・郵便業（同▲28.6%）が減少したほか、情報サービス業（同▲24.3%）や金融業・保険業（同▲19.5%）が全体を押し下げた。他方、卸売業・小売業（同+60.5%）や建設業（同+8.4%）などは前月から増加した。

図表3：業種別・機種別に見た機械受注額の動き



（注）大和総研による季節調整値。輸送機械に船舶は含まない。非製造業の工作機械受注は少額であるため図表から除外したが、25年1月は前月比+47.0%であった。

（出所）内閣府統計より大和総研作成

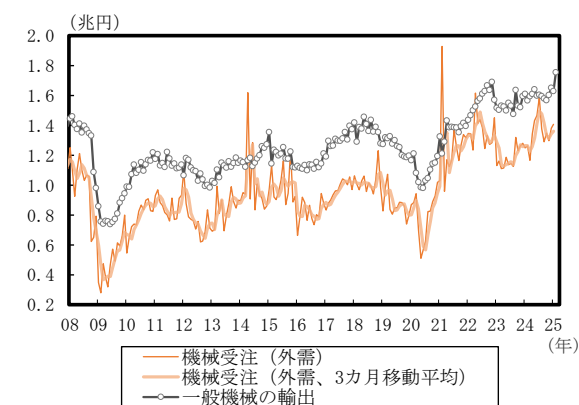
【外需】9件の大型案件が寄与し、2カ月連続で増加

外需は前月比+1.9%と、2カ月連続で増加した（図表4）。機種別に見ると、電子・通信機械と産業機械が増加した（図表5、大和総研による季節調整値）。他方で、輸送機械、原動機・重電機、工作機械は減少した。火水力原動機が3件、電子計算機が1件、鉄道車両が1件、船舶が4件と、合計9件の大型案件が増加に寄与した。

機械受注の外需動向を地域別に見る上で参考になる工作機械受注を確認すると、1月の外需は前月比▲10.0%と2カ月ぶりに減少した（日本工作機械工業会、図表6、大和総研による季節調整値）。米国（同▲21.6%）、欧州（EU+英国、同▲12.1%）と中国（同▲16.5%）からの受注額はいずれも減少し、前月の増加からの反動が表れた。

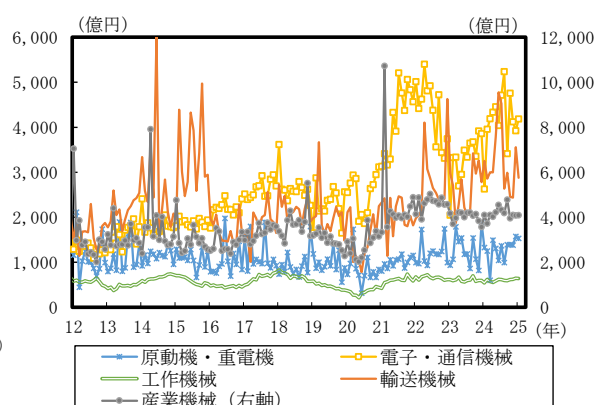
工作機械受注は2月分がすでに公表されており、内需は前月比▲0.0%と2カ月連続で減少した一方、外需は同+2.4%と2カ月ぶりに増加した。

図表4：一般機械の輸出と機械受注の外需



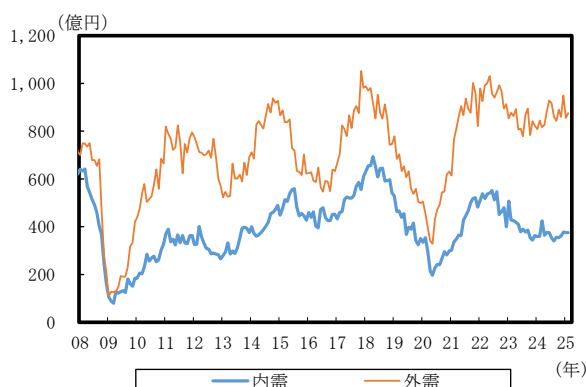
(注) 季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府、財務省より大和総研作成

図表5：機種別の機械受注の外需

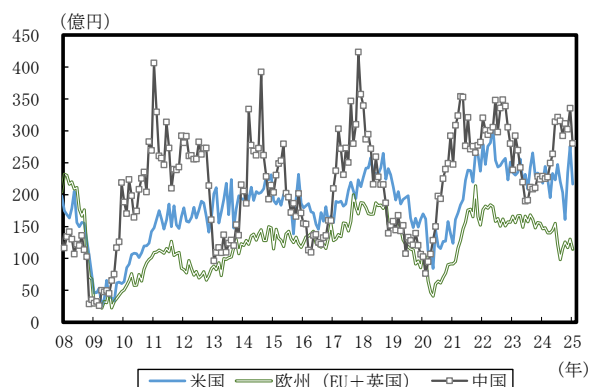


(注) 季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府、財務省より大和総研作成

図表6：工作機械受注の推移



(注) 季節調整は大和総研。直近は2025年2月の数値。
(出所) 日本工作機械工業会統計より大和総研作成



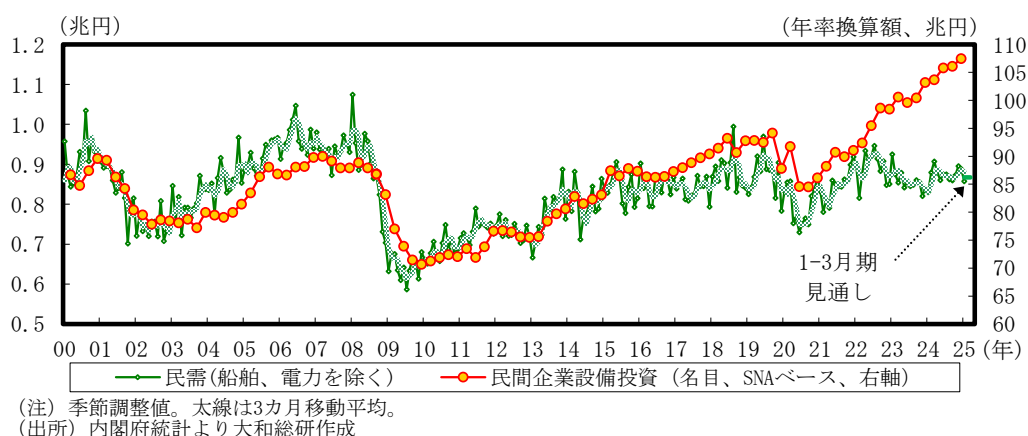
(注) 季節調整は大和総研。直近は2025年1月の数値。
(出所) 日本工作機械工業会統計より大和総研作成

【先行き】民需（船電除く）は緩やかな増加基調を維持

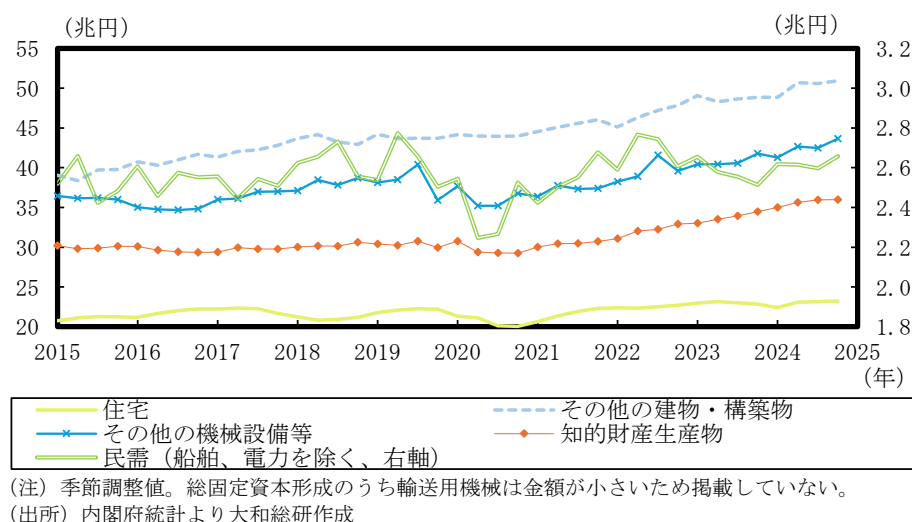
先行きの民需（船電除く）は、緩やかな増加基調を維持するとみている。国内では企業の設備投資意欲が旺盛であることから、今後も省力化投資などの増加が期待される。日銀短観によると、直近の12月調査における全規模全産業の2024年度設備投資計画（含む土地、ソフトウェアと研究開発は含まない）は前年度比+9.7%となり、高水準にあった9月調査（同+8.9%）からさらに上方修正された。企業の設備投資計画は強気であり、機械受注額の押し上げ要因となろう。ただし、海外経済の先行き不透明感は依然として強い。1月に発足した米トランプ新政権による関税政策と、それに対する各国による報復関税がエスカレートしている。このような不安定な状況が続けば、国内外を問わず、企業は設備投資を手控えるリスクがある。

なお、近年は名目民間企業設備投資額（SNAベース）と機械受注額が大きく乖離している（**図表7**）。機械以外の項目が民間企業設備投資を押し上げることで、乖離が生まれている可能性があることに留意したい（**図表8**）¹。

図表7：機械受注額と名目設備投資



図表8：機械受注額（船電除く民需）と形態別の総固定資本形成



¹ 詳細は、ビリング安奈「[2024年12月機械受注](#)」（大和総研レポート、2025年2月19日）を参照。

概 況

機械受注と設備投資【製造業】（季節調整値）

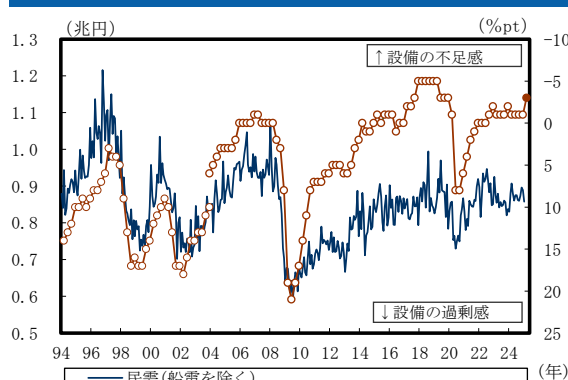


(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

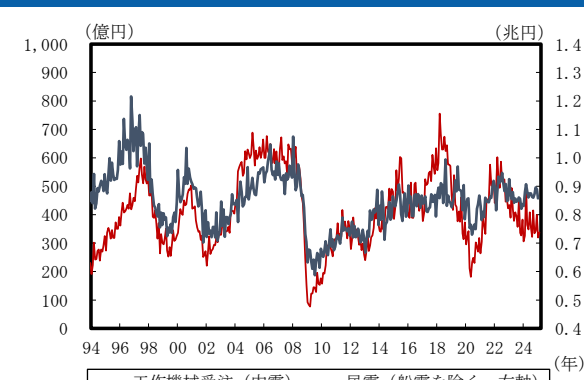
機械受注と設備投資【非製造業（船舶・電力除く）】（季節調整値）



機械受注（季節調整値）と設備判断DI

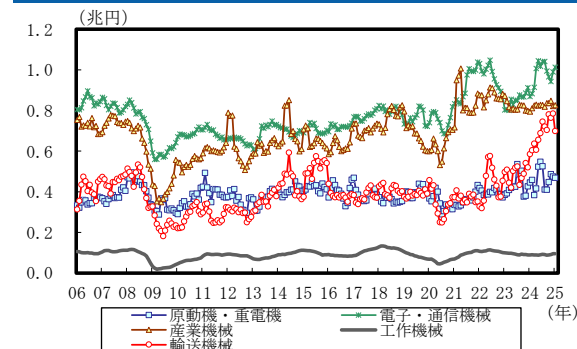
(注) 設備判断DIの段差は、統計の基準変更に伴うもの。直近は先行き値。
(出所) 内閣府、日本銀行、日本工作機械工業会統計より大和総研作成

機械受注（季節調整値）と工作機械受注

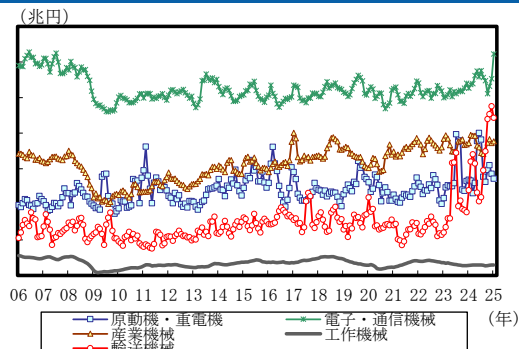


機種別の動向

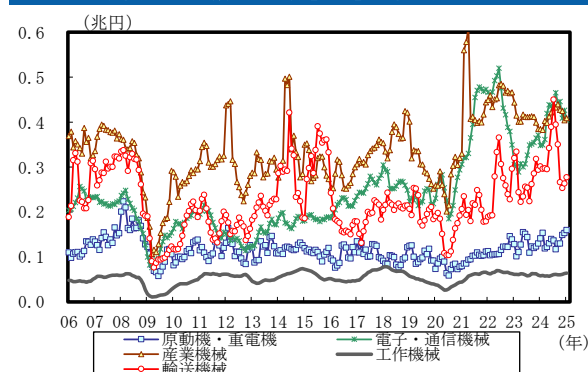
機種別・大分類の受注額（季節調整値）

(注) 3カ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

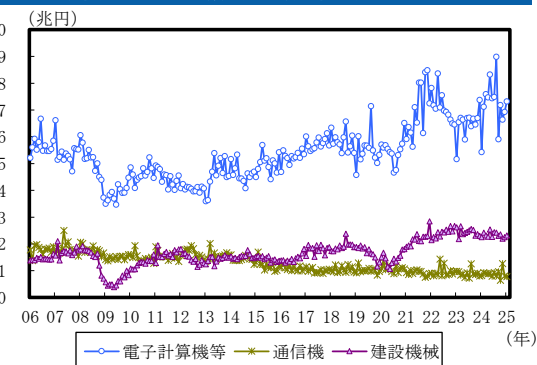
機種別・大分類の受注額【内需】（季節調整値）



機種別・大分類の受注額【外需】（季節調整値）

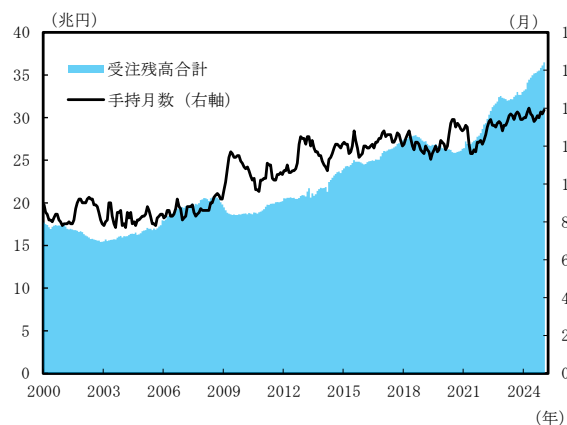
(注) 3カ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・主な中分類の受注額（季節調整値）

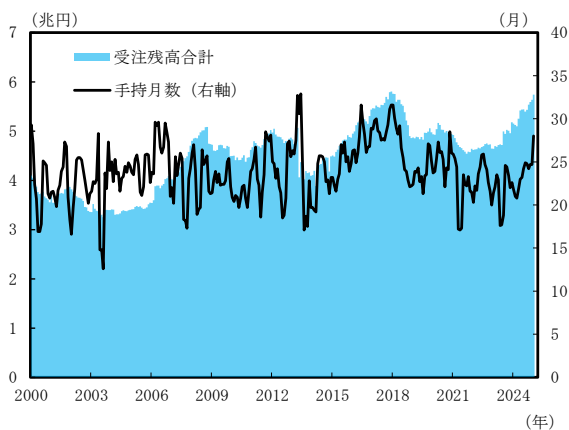


主要機種の受注残高と手持月数

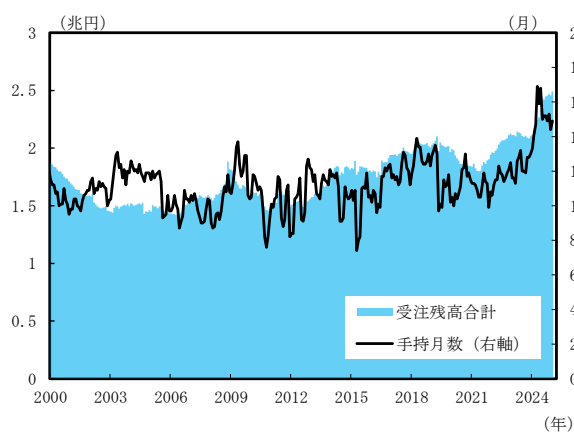
合計（船舶を除く）



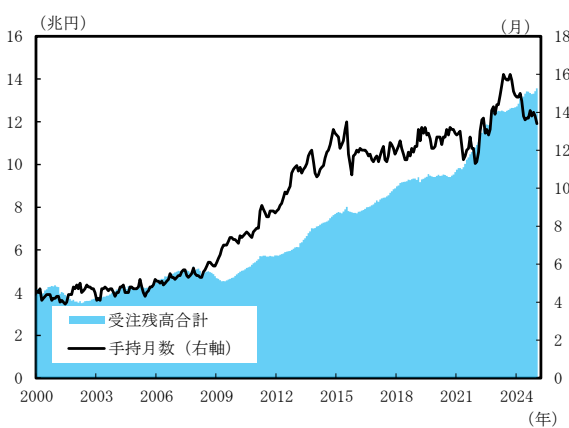
原動機



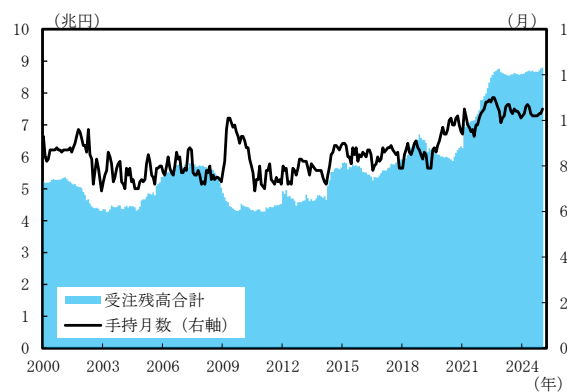
重電機



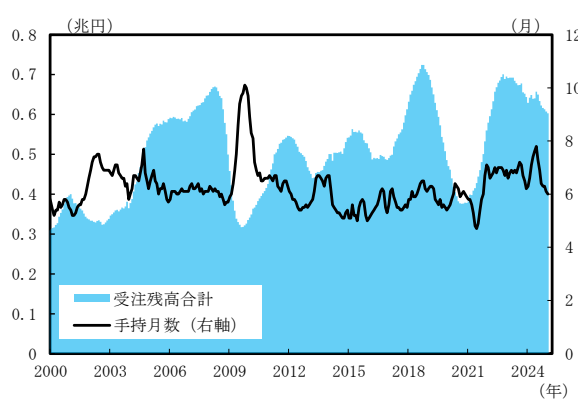
電子・通信機械



産業機械



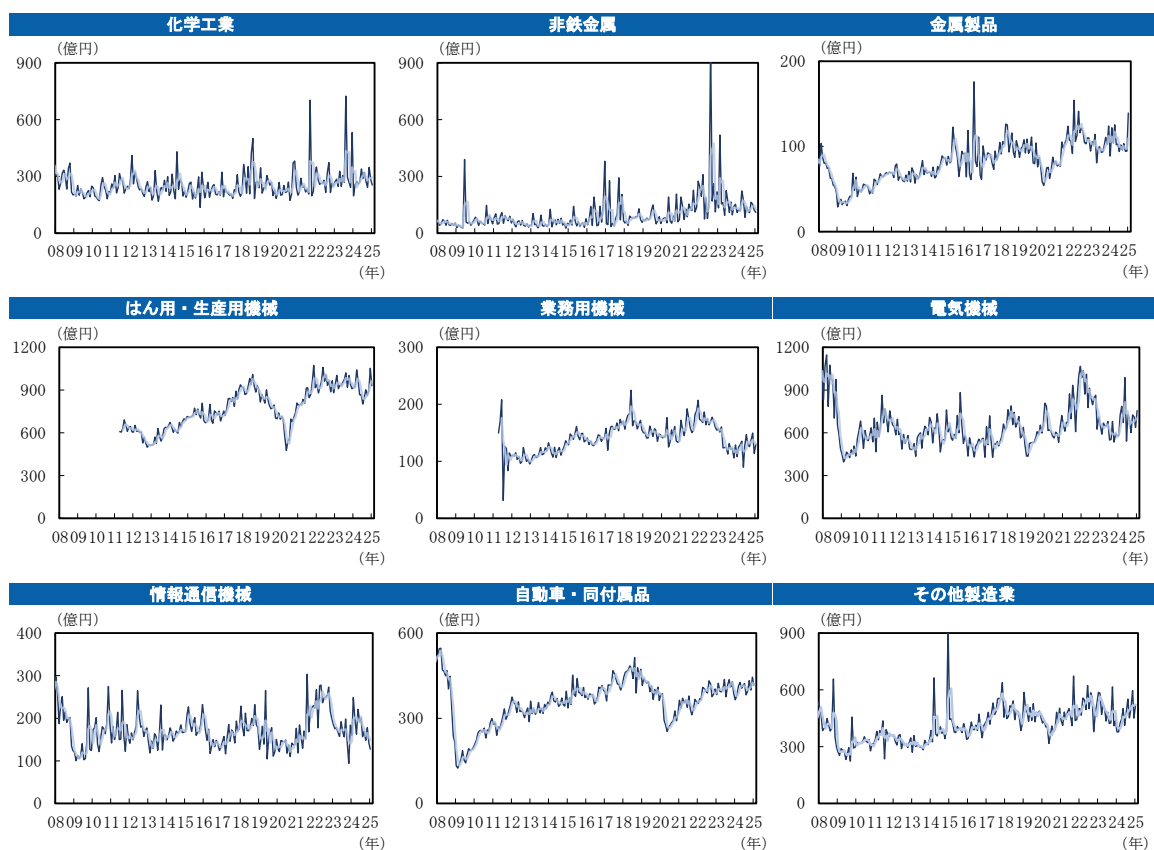
工作機械



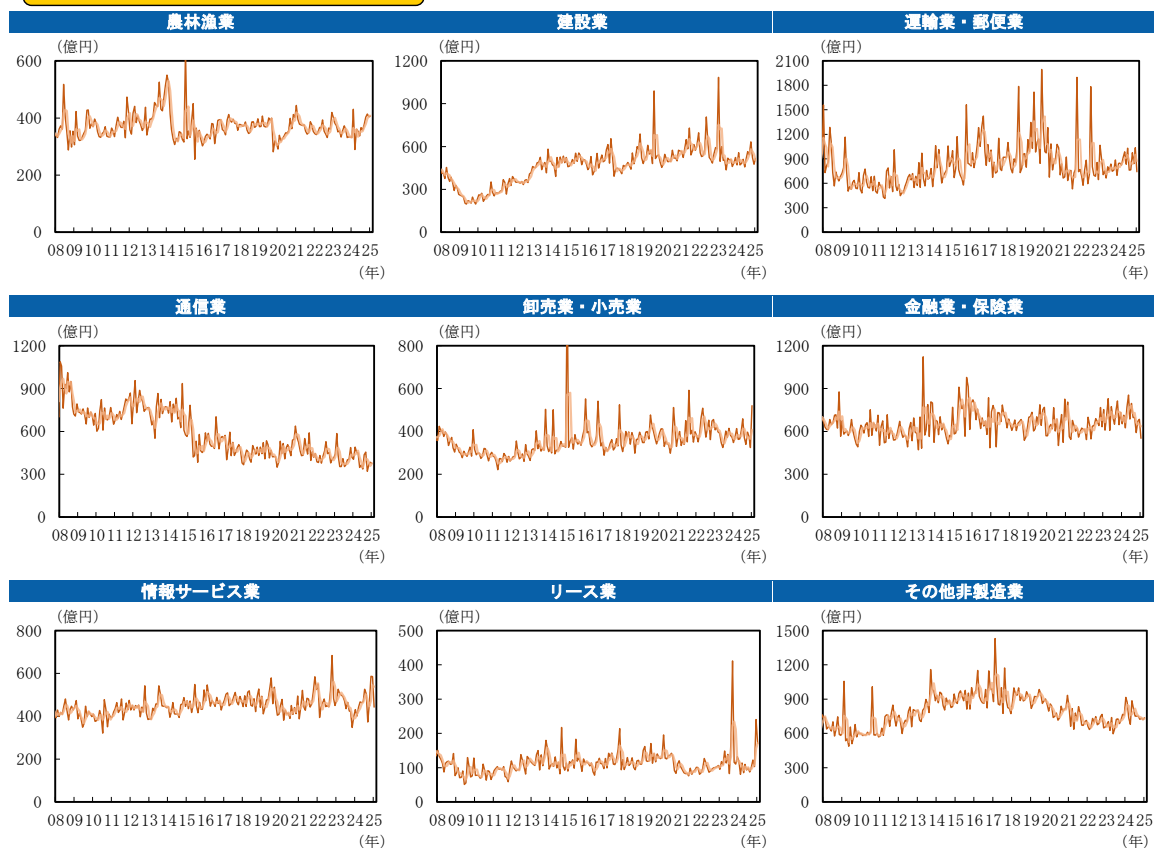
(注) 季節調整値、合計を除く受注残高の季節調整は大和総研による。

(出所) 内閣府統計より大和総研作成

主要業種の受注額（製造業）



主要業種の受注額（非製造業）



（注）季節調整値、太線は3カ月移動平均。業種分類の改定により、一部2011年4月以前のデータがない。

（出所）内閣府統計より大和総研作成